

学校が本格的にスタートした15日に合わせて、突然市教委から、「さいたま市から医療従事者に対する謝意の表明」10万人の子どもたちから『ありがとう』の拍手を届けます』という通知が届きました。同日15日、午前10時から市内全学校で、30秒間の一斉拍手が行われました。この時間帯は、学級開きやすぐに授業を行いたい場面であり、現場に戸惑いの声が届きました。

市教委は、「子どもの心を育てる意義深い教育活動」と説明しています。



ビデオ会議システムを通じて、一斉に拍手する教育委員会職員 (15日午前)

(「写真提供：共同通信社」Photo: Kyodo News)

「医療従事者に10万人の拍手」に疑問の声

「感謝の気持ち」は押しつけて生まれるものではない

が、現場では、「そもそも『感謝の意』は上からの押し付けや指示で生まれるものではない」との声も多く、感謝の対象やその表現方法についてあらかじめ説明したり、学校やその主体者の子どもたちに考えさせる機会を持たせるべきだったのではないかと思われまます。これを取り巻く話題は世論でも関心を寄せられ、報道やSNSなどで批判の声が多く寄せられています。

しかし教育長は「ネット上の批判は自由だが、意に介さない」と述べるなど、まわりの声を受け入れないかたくな姿勢を示しています。

また教育長はその後、「意見要望があれば、匿名ではなく直接メールや電話で知らせるように」との注意指示を現場教職員に行っています。

そもそも「10万人のありがとう」行動は、委員会で決め(発案者 細田教育長)、実施の数日前に現場に下されてきたものです。典型的なトップダウンでした。それを今になって意見要望を聞くので「直接知らせるように」というのは、無理があります。

また今後は意見要望を聞くという姿勢を示したものであるとしても、これまでの度重なるトップダウンの事例を考えるとにわかには信じがたく、なおかつ教育長と現場では関係が対等とは捉えにくい事を考えると、このような通達をしても、個人としての意見表明などの行動は止められるものではありません。

そのような通達を出すより、教育長のやるべき事は、そもそも批判を受けるような企画をしたことを真摯に考え直すことでいいのではないでしょうか。



市教組定期大会について

今年度の市教組大会は8月28日(金)を予定していますが、新型コロナウイルス感染症対策で文書による提案、承認の形式で行います。議案書は6月中旬に分会に配布いたします

閑話

学校に子どもたちの笑顔が戻ってきました。やかましさや辟易としてしまう普段ですが、やっぱり学校にはこのやかましさが必要だと思います。

「せんせい、美容院に行けなかったから、私の毛自分で切ったんだよ。」
 おでこの見えるみかちゃんの前髪が休み中の大変さを、でも微笑ましく語っています。話したくてたまらない子どもたちが何人も近寄って、つつい話を聞いてしまいます。

たくさん課題を提出してがんばっていたりゆうくんの頭をなでています。そして、「はっ、」と思って、私からその場を離れてしまいます。

そんな中、あいちちゃんは休み中に日記を書いていました。

ひとりのこと あい

先生あのね。
 5月におにわでひとりのことをいってみました。ひとりのことというのはいって心の中のことばです。それをいって心みました。みんなもいってみてね。

普段から、友だちにも担任にも楽しく積極的に話しかける、おしゃべり大好きなあいちやんが、「おにわでひとりのこと」を言いたがらどんなことを考えていたのか、ひとりのことどんなことを言ったのか、想像するだけで心が痛みます。

早くみんなと自由におしゃべりできる日が来るのを願います。

